



下関から見た関門橋と門司港

日本の源流 再発見

File 30 福岡県北九州市

本州と九州を結ぶ交通の要衝として発展

九州の最北端、福岡県北九州市の門司港は古来交通の要衝で、特に明治初期の開港以来、急激に発展しました。門司港周辺には今も当時の建物が残り、対岸の山口県下関市と共に日本遺産「関門“ノスタルジック”海峡 ～時の停車場、近代化の記憶～」に認定されています。



明治の面影を残す美しい港町

九州の鉄道の玄関口である「門司港駅」は、九州鉄道の起点として1891年に開業しました(当時は門司駅)。現在の駅舎は2代目で、1914年に竣工した築100年を超える歴史的建造物です。鉄道駅として日本で初めて重要文化財に指定されたこの駅舎は、老朽化対応や耐震補強のため約6年間にわたり保存修理工事が行われていましたが、2019年3月にグランドオープン。大正時代の姿がよみがえりました。

門司港駅舎を背にした正面には、「旧門司三井倶楽部」があります。この建物は、三井物産の接客、宿泊施設として1921年に建築されたもの。翌1922年には相対性理論で知られているアインシュタイン博士夫妻が、出版社の招きで日

本各地を講演旅行した際に5日間宿泊しました。老朽化により存続が危ぶまれましたが、国の重要文化財に指定後、保存修理工事と移築が行われ、観光施設として生まれ変わりました。館内には、夫妻が宿泊した3部屋が「アインシュタインメモリアルルーム」として保存されており、見学可能です。

また、2階には門司にゆかりのある作家、林芙美子記念室もあり、芙美子の生涯や作品を紹介しています。この建物は、駅側から見ると洋館ですが、奥に和風の付属屋がつながっており、一風変わった外観です。

近隣には、1917年建造で国の登録有形文化財「旧大阪商船」をはじめ、「旧門司税関」、通信省門司郵便局電話課



▲ 旧大阪商船

オレンジのタイルと白い石が印象的な美しい建物です。現在はギャラリーやショップ、貸しホールとして活用されています



▼ 部埼灯台

関門海峡の東端に位置し、海峡を通る船舶の安全を150年近くにわたって見守っています



▲ 門司港駅

ネオ・ルネサンス様式の木造2階建ての駅舎は、左右対称の造りが特徴的です



▲ 旧門司三井倶楽部

アインシュタイン博士夫妻が滞在したリビングルームです。修復した当時の家具・調度が展示されています

庁舎として建てられた「門司電気通信レトロ館」など、歴史的建造物が数多く残っています。このエリアは、「門司港レトロ」として整備され、その美しい景観から国土交通省の「都市景観100選」にも選ばれています。

門司港レトロ地区からほど近い和布刈公園のノーフォーク広場からは、関門橋を望むことができ、関門海峡が目の前に広がります。ひっきりなしに船舶が行き交う様子は、日本の海運を担う重要な海峡であることを感じさせます。

関門海峡の東端には、部埼灯台があります。この灯台は、江戸幕府が兵庫開港に備えて、英国公使と設置を約束した5つの灯台のうちのひとつで、1872年に初点灯しました。九州の洋式灯台としては、最も古いものです。白い御影石の外壁や回転式レンズが美しく、「日本の灯台50選」にも選ばれています。

ココに注目



バナナのたたき売り発祥の地である門司港は、バナナを使ったお土産が豊富です。海峡プラザ1階にあるカフェ「グリーンゲイブルズ」の「レトロバナナ」もそのひとつ。バナナの香りや風味を生かした人気の焼き菓子です。

日立グループ事業所紹介

今回訪れた福岡県には株式会社 日立製作所 北九州支店があります。電力・電機、ビル、情報などのさまざまな分野で情報システム、電力・産業システム、都市ソリューション、環境・エネルギーなどの製品・サービスを通じたソリューションを提供しています。

株式会社 日立製作所 北九州支店
福岡県北九州市小倉北区堺町一丁目2番16号
<http://www.hitachi.co.jp/>